

画像 (水島神社)	画像 (球磨焼酎)	画像 (くま川鉄道)	画像 (ラフティング)
画像 (球磨川)	画像 (青井阿蘇神社)	画像 (バンジージャンプ)	画像 (球泉洞)

2024年度
球磨川リバーミュージアム構想
(素案)

KRM 2024

※画像については、権利関係確認のためダミーを配置。

1 背景と目的

球磨川との共生の歴史

この地では、古くから
球磨川によってもたらされる恵みを楽しみ、
時に災害と闘いながら、
独自の歴史・文化を築いてきました

球磨川の水害との闘い

- ・ 築堤、護岸
- ・ ダム
- ・ 災害遺構
- ・ 水害の教訓、記念碑
- ・ タイムライン防災 など

画像
(工事風景)

画像
(被災した橋梁)

球磨川がもたらす恵み

- ・ 水、食材
- ・ 自然
- ・ 体験
- ・ 祭り
- ・ 温泉 など

画像
(棚田)

画像
(ラフティング)

球磨川と共生する工夫

- ・ 灌漑
- ・ 城・古社寺
- ・ 鉄道
- ・ 信仰、祈り など

画像
(幸野溝)

画像
(くま川鉄道)

令和2年7月豪雨災害が発生

球磨川流域では令和2年7月豪雨災害を契機とした更なる人口減少や産業の衰退の危機に直面しています。

一方で、これまでの川の恵みに感謝し、川とともに暮らすことを見つめ直す機会となり、流域では緑の流域治水の理念のもと、自然環境に配慮しながら次の災害に備えつつ、川の魅力を最大限に活かした復興の取り組みが進められています。

また、2035年には新たな流水型ダムの完成や同時期には肥薩線の復旧も予定されるなど、流域に注目が集まり、多くの人が訪れることが予想されます。

球磨川※リバーミュージアム構想

流域の市町村や民間団体、住民がこれまで進めてきた川との共生の取り組みとこれから実施する取り組みを連携させ、統一感を持って進めることで球磨川流域ならではの魅力あるストーリーをとりまとめます。

そして、流域にしかないもの、流域でしか感じられない特別な体験を本構想を旗印として流域内外に広く発信し、多くの人に興味・関心を広げます。

※ 川辺川をはじめ球磨川に流れ込む河川を総称して「球磨川」と表現しており、一体となって取り組みを推進していきます。

2 球磨川リバーミュージアムの方向性

目指す姿

“川とともに暮らす豊かな地域”として流域内外に広く認知され、
誰もが安全安心に過ごし、誇り・愛着心を持って住み続ける地域の実現

流域の住民に対して、

地域防災力の向上

緑の流域治水の理念のもと、**災害の教訓を活かし**、
住民一人ひとりが球磨川と上手に付き合い、
安全安心に過ごすことができる。

流域で暮らす価値・魅力を再認識

川の恵みと防災を学び、豊かな自然や景観、
食を体感することで、川との共生に興味を持ち、
生まれ育った地域への誇り・郷土愛を育んでいる。

流域外の関心を高めて、

豪雨災害リスクの軽減

流域の防災知識や経験が注目を集め、交流が進み、
流域外の人々にも活かされている。

交流人口(来訪者)の増加

川との共生を来訪者が実感できる、流域だけの
特別な価値を創出し、多くの人が訪れている。

発信

“球磨川リバーミュージアム構想”を
旗印として流域内外に**発信**

整理する流域資源例

テーマ

“川とともに暮らす文化”

防災につなげる取組み

川の恵みを活かし学ぶ取組み

集約・整理
連携

取組みの**集約・整理**
地域間・分野間の有機的な**連携**

取組
資源
みや

災害・防災

歴史・文化

自然

観光

3 想定される取組みや連携事業(例)

災害・防災 (緑の流域治水)

災害遺構

- 道の駅坂本の整備(八代市)
- 慰霊公園の整備(球磨村)

伝承文化

- リアルハザードマップの設置
- 災害語り部の活動(球磨村)
- 人吉球磨防災学習プログラム(人吉温泉観光協会)

防災文化

- 住民参加型避難訓練の実施
- タイムラインのコミュニティ防災
- 地域防災リーダーの育成
- 防災関係を学ぶ機会の提供

災害復興

- 緑の流域治水の研究(県大・南稜高校)
- スタディーツアー(地総研)
- JR肥薩線/くま川鉄道と連携(インフラツーリズム等)
- 流水型ダムの記事現場ツアー

歴史・文化

歴史・史料

- 日本遺産(人吉球磨・八代)と連携
- 流域の災害の歴史についての調査・整理

史跡・遺産

- 日本遺産(人吉球磨・八代)と連携
- 点在している史跡/遺産を繋ぐストーリーの検討
- 遙拝堰等の治水の史跡の整理
- 幸野溝・百太郎溝等の利水の史跡の整理

伝統文化

- 日本遺産(人吉球磨・八代)と連携(相良三十三観音巡り、球磨神楽・臼太鼓踊り、球磨拳・ウンスンカルタ等)
- 七夕綱の取組み
- ひな祭りの取組み

自然

地形・地質 (川の成り立ち等)

- 球磨川の成り立ちの整理/ストーリー化
- 球磨川の地形と歴史文化の整理

絶景

- 朝霧や雲海を活かしたツアー
- エメラルドロード(球磨村)
- 流域の地形が見やすい拠点整備

自然・環境

- 自然体験ツアー
- 地域気象データと先端学術(ClimCORE)
- 自然・環境学習を学ぶ機会の提供

食

- 流域の食文化の発信
- 球磨焼酎ブランドの発信
- 食を活かした連携事業(奥球磨どんぶりフェア、ホルモン街道、芦北伽哩街道等)

観光

- 観地協、DMOやつしろと連携

体験

- 川くだりやラフティング体験(HASSENBA、ラフティング協会等との連携)
- ガイド、案内人の育成
- サイクルツーリズムとの連携
- アニメツーリズム(夏目友人帳、放課後ていぼう日誌等)との連携

拠点整備

- かわまちづくり計画(八代/人吉)
- 川辺川魅力創造事業(相良村)
- 宮園周辺地域振興計画(五木村)
- 石蔵活用拠点整備(山江村)
- レールウィング整備(湯前町)

温泉

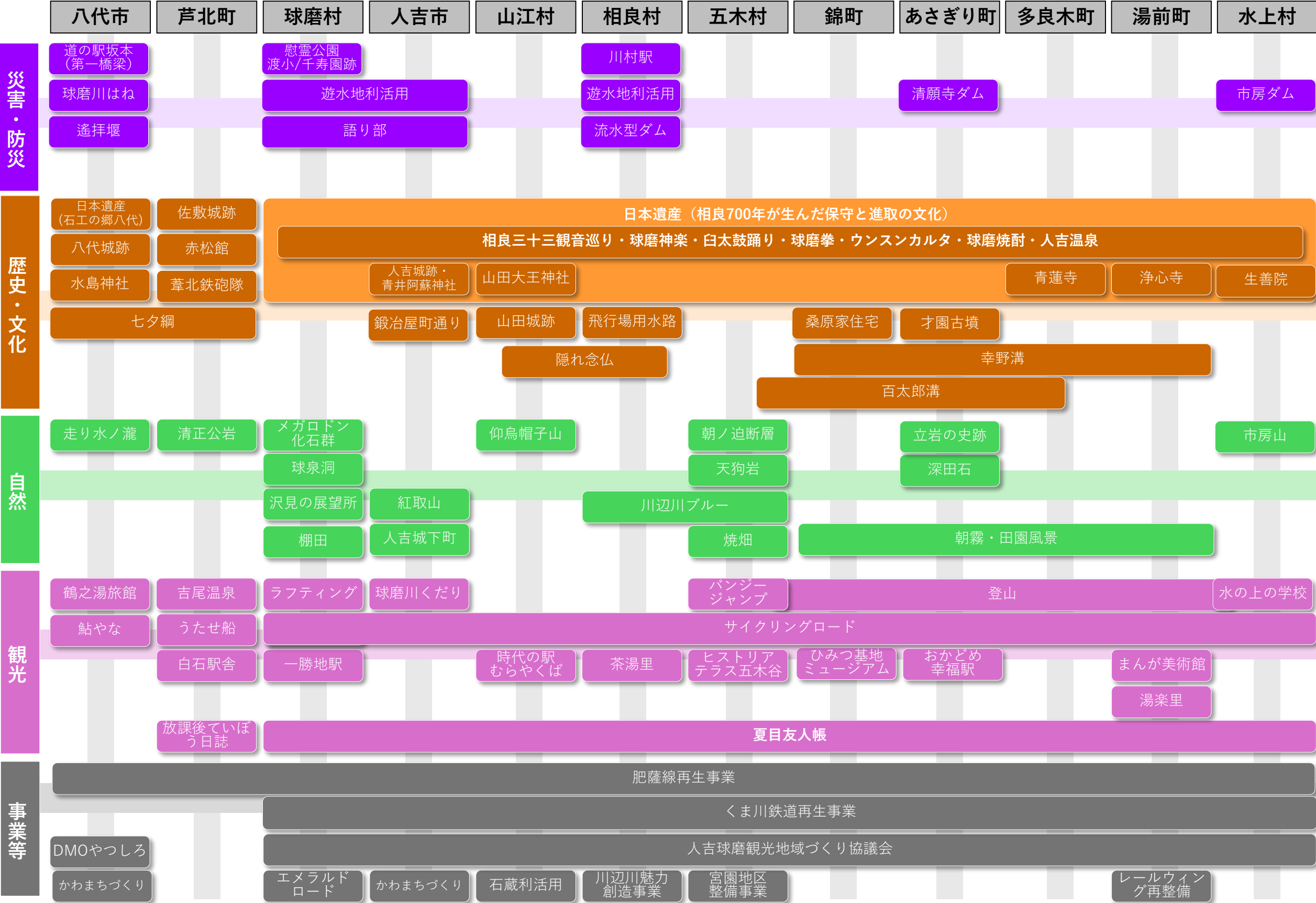
- 各温泉地との連携
- ツアー時の宿泊拠点
- 球磨川と温泉の関わり調査研究

公共交通

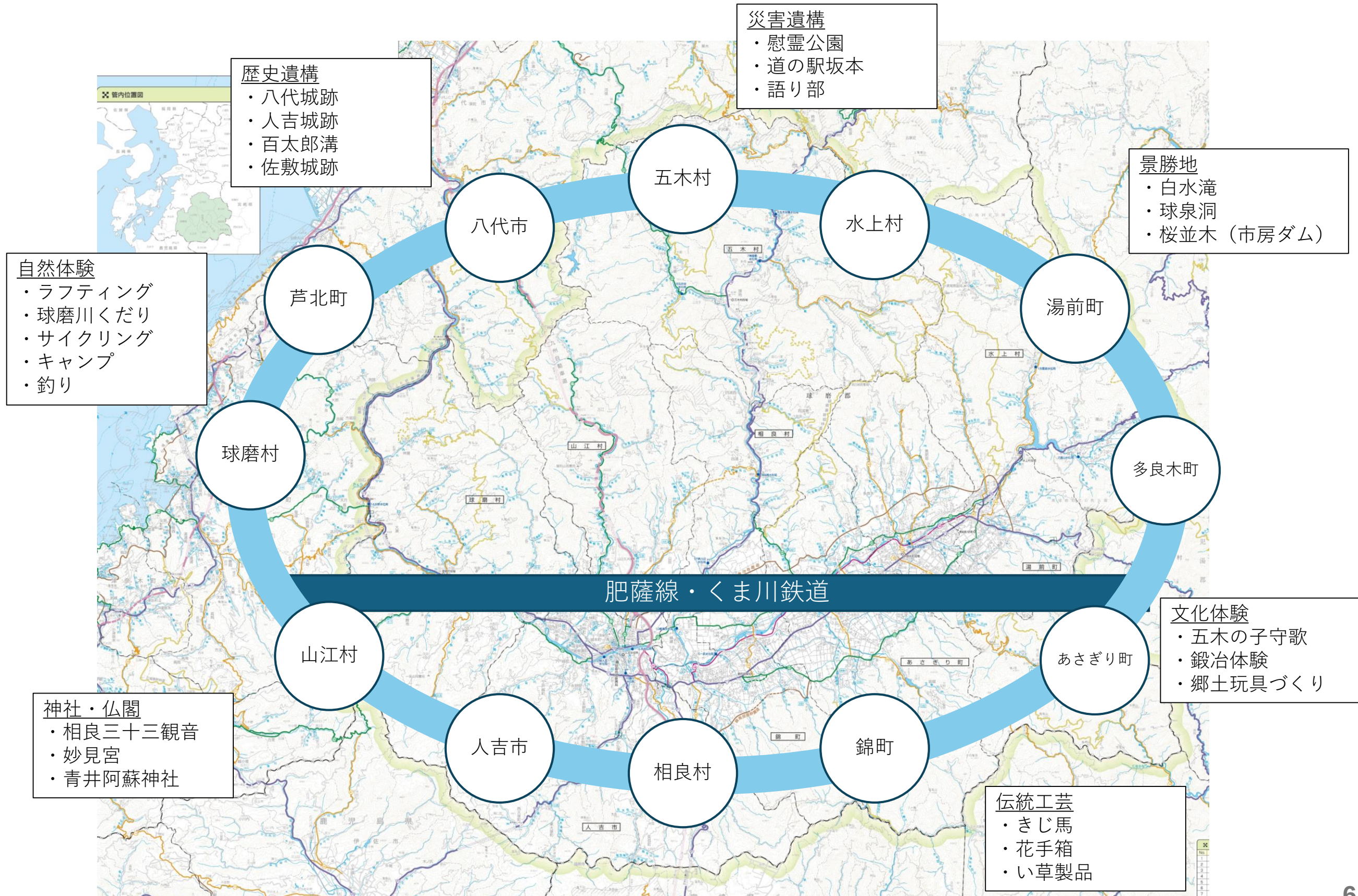
- 肥薩線アクションとの連携
- SL人吉保存活用(人吉市)
- 各資源を結ぶ「道」の検討整備

4 流域資源(例)

※令和6年度勉強会で抽出整理された流域資源の一部（流域資源リスト一覧は【参考資料】に掲載）



5 構想イメージ図（仮）



6 球磨川リバーミュージアム流域資源ストーリー

球磨川の流域資源について、地元の子どもたちや来訪者たちに関心をもってもらい、わかりやすく伝えていくために、関係性の高い複数の資源を線や面で繋いで紹介するストーリーを作り発信します。

令和6年度に行われた勉強会で挙げられた流域資源をもとに、以下に3つのストーリーテーマを例示します。

例1) 球磨川から見える景色（本川・前編）

画像
(球磨川)

球磨川流域では、ときに激しく、ときにゆったりとしたその流れを体験することができる様々なアクティビティが各地に点在し、多くの来訪者を楽しませている。しかし、球磨川は場所によって激しかったりゆったりしていたりと様々な顔をもつため、上流から下流まで一貫して川をくぐるアクティビティは存在しない。そこで、実際には難しい上流から下流まで球磨川を下っていくと見える様々な流域資源を、流れに身を任せて順に紹介する。

例2) 球磨川流域 鉄道ものがたり

画像
(くま川鉄道)

球磨川流域に暮らす人々にとって欠くことのできない鉄道。令和2年の水害によって甚大な被害を受けて不通となっているが、一日も早い復旧・再開は流域住民の願いである。

JR肥薩線(八代～人吉)とくま川鉄道は、球磨川と絡み合うように並行して走る。急峻な山に囲まれるこの地になぜ鉄道を通す必要があったのか、球磨川を繰り返し渡って走るわけとは、そして水害との闘いの歴史。球磨川と鉄道の2つの道から見える景色とその歴史を紹介する。

例3) 球磨川ジオストーリー

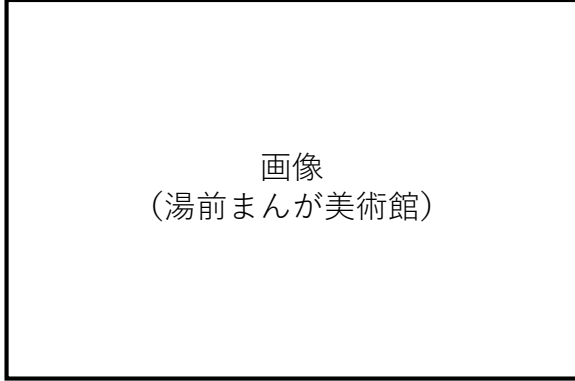
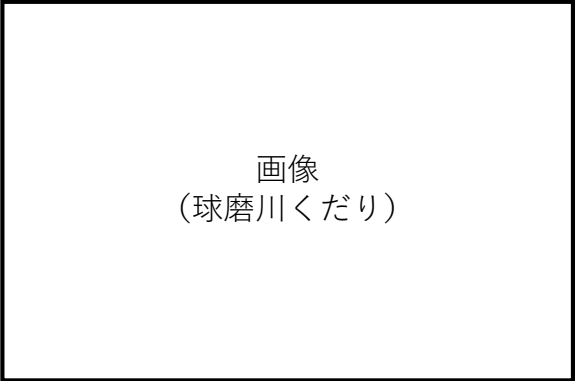
画像
(流域地形図)

険しい山々に端を発し、山地の中にぽっかりと開いた盆地を悠々と流れ、急峻な崖が迫る狭窄部を抜けて、八代平野から海へと注ぐ球磨川は、プレート運動によってできた大地と巨大な断層活動、周辺の火山活動などの大地の変動によって翻弄されてきた。

数々の支流と球磨川本流が流れるこの地で、かつて何が起こり、どのように現在の姿になったのか、大地変動に翻弄された球磨川の生きざまを紹介する。

流域資源ストーリー(例) ① 球磨川から見える景色（本川・前編）

※画像の著作権等の承諾を得ていない資料のため、複製・転載等のご遠慮ください



球磨川では急流を利用して【ラフティング】や【球磨川くだり】など、直接川に触れて川の周辺を楽しむことができるアクティビティが各地で行われている。しかし、様々な表情を持つ球磨川を上流から下流まで流れにのって一貫してくだることは難しい。したがって、ここでは「大球磨川くだり」と称して、空想上で上流から下流まで川をくだって楽しんでみたい。

■ 【球磨川水源】の地・水上村からスタート

球磨川の最上流付近にある白水滝に向かう途中、二つの【吊り橋】がある。一つは熊本県で最も長い吊り橋の「白龍王橋」、もう一つはアクリル板で真下が見える「白龍妃橋」。そこから川の流れに身を任せることにする。

流されるまま南下していくと、【市房ダム】のダム湖に出る。洪水調整・発電・灌漑に使われる多目的ダムで、春には約1万本の桜が満開になる名所となる。川沿いを国道388号線が通っているので、時折走る車を横目に球磨川本流を下っていく。

球磨川の右岸、水上村と湯前町、多良木町の境界付近に国指定重要文化財の観音堂がある【猫寺(生善院)】を見ることができる。また、左岸の湯前町には、湯前町出身で昭和の政治風刺漫画家である那須良輔氏の偉業を記念して開館した【湯前まんが美術館】もある。湯前まんが美術館のとなりにある湯前駅が【くま川鉄道】の始発(終着)駅で、ここから球磨川に沿って人吉、さらにJR肥薩線で八代の河口付近までともに下っていく。

多良木町に入ると右岸に見える鎌倉時代の荘重雄健の特色をもつ【青蓮寺】阿弥陀堂を通り過ぎて、【鮎ノ瀬井出】に遭遇する。鎌倉時代の1295年に領主相良頼宗が建造した灌漑用水路でここから大宮神社前まで掘られていたという。

あさぎり町に入ると、流れの穏やかな場所をゆったりと下り、河畔に広がる牧場には【山羊が放牧】されている。深田付近でふと河岸に奇妙な岩が見える。【立岩の史跡】である。かつての船着き場で人吉に向けての船便があった。急に目の前に魚の群れが現れた。と思ったら、どうやら魚の背に見える岩がたくさん水面から顔を出しているようだ。その名も【魚背岩】。川をくだるにはなかなかの難所である。

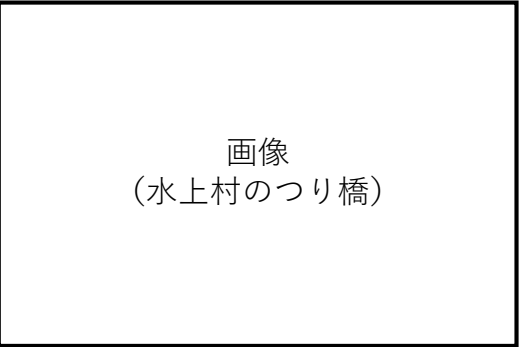
錦町に入る。地元の方々が大事にしている西村大王神社、一武八幡宮、木本神社を眺めながらさらに下ると、右岸が相良村となる。相良村を北から南に流れてきた【川辺川】がここで球磨川と合流する。少し下流に進むと、のどかな田園風景の中に駅舎が見えてきた。球磨川と並行して走るくま川鉄道の【川村駅】だ。駅待合所は、その美しい構造から国指定有形文化財になっていたが、令和2年の水害によって被災し、その再建方法については協議中である。さらに少し進むと、球磨地域の神社に特徴的なL字の形をしている国指定重要文化財の十島菅原神社がある。祭神は菅原道真公であり、その神社名から「とおします」の合言葉で受験生に人気の神社となっている。

■ 人吉球磨の中心地・人吉市の温泉でひと休み

十島菅原神社を過ぎると程なくして人吉市に入る。人吉盆地の平坦な場所なので流れも穏やかでゆっくりと周囲を見渡すことができる。左岸のほうに立派な壁と石垣が見えてきた。相良氏が鎌倉時代に地頭としてこの地に赴任して以来約700年に渡って人吉のまちを見守ってきた【人吉城跡】である。球磨川とその支流の胸川を天然のお堀として、丘の上に本丸が築かれた平山城である。明治4年の廃藩置県により廃城となったが、明治10年の西南戦争では西郷隆盛軍の拠点となって戦闘が行われた。本丸のあった丘から雄大な球磨川と対岸の人吉市街を一望できる。川沿いに立派な温泉宿が軒を連ねていて、温泉に浸かりながら球磨川の流れを眺める幸せを想像してしまう。

少し下流には国宝【青井阿蘇神社】がある。806年の創建以来、この地の開拓の守護神として人々が安心して暮らす心の拠り所である。東に球磨川・山田川、南に蓮池、西に大路、北に村山という地形から、四神(青龍・朱雀・白虎・玄武)相応の地としてこの地が選ばれたと考えられている。

長旅でさすがに疲れてきたので、心も体も十分に回復できそうなこの地で、明日に備えて少し休憩することにしよう。



流域資源ストーリー(例) ② 球磨川流域 鉄道ものがたり

※画像の著作権等の承諾を得ていない資料のため、複製・転載等のご遠慮ください

球磨川流域に暮らす人々にとって欠かすことができない鉄道。令和2年の水害によって甚大な被害を受けて不通となっているが、一日も早い復旧・再開は流域住民の願いである。JR肥薩線(川線)とくま川鉄道は、球磨川と絡み合うようにして走っている。急峻な山に囲まれるこの地に鉄道を通してきた理由に思いを馳せながら、球磨川の下流から上流まで変わりゆく景色を車窓から眺めてみるのも素敵な時間となるだろう。

■ 国家の威信をかけた難工事

明治以降の国策として鉄道が建設され、九州では比較的平地が多い八代より北に明治29年までに鉄道が開業していた。明治政府は九州縦貫鉄道構想のもと、鹿児島までの鉄道敷設を決定したが、諸外国との戦争を想定した軍事輸送にも活用できるよう、海から大砲で狙われる恐れのある海岸沿いではなく、内陸のルートで建設することとなった。

しかし、地形の急峻な八代～鹿児島間は難工事が予想されたため、政府が国家の威信をかけた大工事を計画することとなった。トンネル60箇所、橋梁90箇所、ループ線やスイッチバックなどが工事の困難さを物語っている。明治32年に鹿児島側から、明治34年に八代側から工事が始まり、明治39年までに八代～坂本間が開通。九州製紙株式会社の工場輸送を目的に先行で建設されたものだった、急流球磨川に沿う「川線」は、明治41年に八代～人吉間が全線開通し、【坂本駅】【白石駅】【一勝地駅】【渡駅】などの駅も同年に開業した。翌42年には鹿児島までの全線が開通し、政府の計画であった青森～鹿児島を結ぶ日本縦貫鉄道が完成したのである。

■ 近代化産業遺産を今に伝える肥薩線

開業以降、鹿児島本線として南九州の大動脈として貨物や人の輸送に活躍したが、昭和2年に西海岸ルート(現在の肥薩おれんじ鉄道ルート)が開通したため、そちらが鹿児島本線となり、内陸ルートは【肥薩線】となった。開業後早い段階で幹線ルートから外れたこともあり、複線化や電化の対象とはならず、現在でも明治や大正時代の鉄道遺構が現役のまま利用されている。【白石駅】や【球磨川第一橋梁】【球磨川第二橋梁】(ピンで結合されたトランケートトラス橋；アメリカンブリッジ社製)、人吉機関車庫(全国唯一の現役石造鉄道車庫)などが現役で利用されている。

日本の近代化を支えた貴重な遺産を今に伝える路線として多くの観光列車が運行する新たな役割を担っているのである。

■ 球磨川とともに人吉盆地を走る通学の足

明治41年に開通した肥薩線の人吉駅から分岐して人吉盆地を東に向かい、湯前までの約25kmの区間が大正13年に湯前線として開通した。当時は人吉～多良木間を客馬車が定期便として走っていた時代で、将来的に宮崎県まで伸ばす路線として計画されたものだった。開業時には、肥後西村、一武、免田(現在のあさぎり)、多良木、湯前の5駅が設けられた。周囲を山々に囲まれた人吉盆地で木材を輸送することを中心とした鉄道であったが、国産木材の需要低下などにもなって昭和55年に貨物列車の運行が廃止され、その後は沿線の高校に通う通学列車として運航を続けていた。

さらに少子化による通学生の減少により国鉄の経営再建の対象とされたが、通学の大事な足である路線をなくさないよう、第三セクター鉄道として、平成元年に【くま川鉄道】が路線を引き継ぐかたちで発足した。

■ 災害との闘いの歴史

急峻な山々に囲まれた人吉盆地を横切り、左右に山が迫る狭窄部を抜けて八代平野へと至るくま川鉄道と肥薩線の川線は、たびたび災害に見舞われて運行停止・復旧を繰り返してきた。古くは昭和47年の集中豪雨で線路の浸水と土砂災害、平成28年熊本地震、令和元年6月の大雨などにより運行停止を余儀なくされている。

そして令和2年7月豪雨では、【球磨川第一橋梁】【球磨川第二橋梁】をはじめ多くの設備が冠水・流失する等の甚大な被害を生じ、今なお肥薩線・くま川鉄道の全線で運行停止となっている。

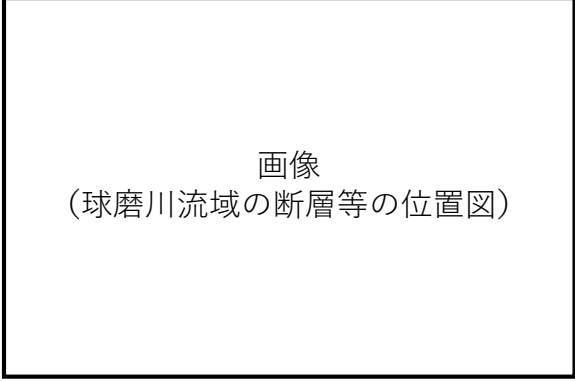
画像
(肥薩線路線図)画像
(くま川鉄道路線図)画像
(くま川鉄道被災状況)

《情報収集中の項目》

- 何度も球磨川を渡って絡み合うように走るわけ
- 車窓から見える流域資源のポイント

流域資源ストーリー(例) ③ 球磨川ジオストーリー

※画像の著作権等の承諾を得ていない資料のため、複製・転載等をご遠慮ください



球磨川が流れるエリアを地形図（左図）で見ると、険しい山地の中にぽっかりと開いた穴のように見える場所がある。人吉盆地である。球磨川は、その盆地の中央を東から西へと貫流し、球磨村と芦北町東部の狭窄部を抜けて八代平野から不知火海に注ぎ込む一級河川である。

■ 1億年前まで海底だった大地に暮らす

この辺りの一帯は、フィリピン海プレートの沈み込み運動によって、南東から北西に押し上げてできた付加体で形成されている。右の地質図を見るとわかりやすい。右下から左上にかけて力（赤矢印）が働いて、上のほうにしわが寄ったように見える。海底がプレート運動によって押し上げられて陸に姿を現した大地の上で暮らしているわけである。

球磨川流域の大地が太古の昔に海の底であった証拠が見つかる場所がある。九州本土最大級の鍾乳洞である【球泉洞】は、約3億年前までは海中にあった石灰岩層（サンゴ礁由来のもの）が隆起したもので、地下水などの浸食によって幻想的な姿を楽しませてくれる。また、球泉洞から近い球磨川にある【槍倒しの瀬】の付近では、2～1.8億年前の海にいた【メガロドン】という貝の化石が見つっている。海の底だった場所が、約1億年前頃に押し上げられて陸地になったと考えられている。

■ 大地の裂け目に偶然できた人吉盆地

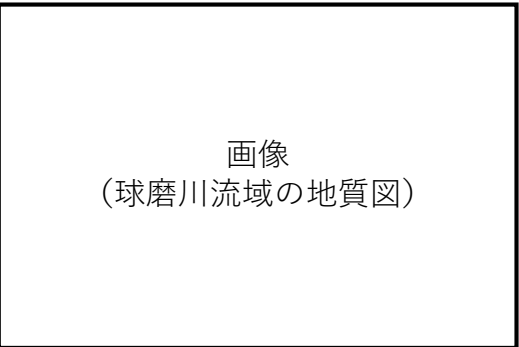
時が経ち、今から約200万年前頃から、南九州で大きな地殻変動がはじまり、人吉盆地付近では右横ずれ断層が生じた。このとき、プルアパート盆地と呼ばれる断層の裂け目に穴が生じる現象によって、人吉盆地が誕生した。プレート運動による付加体として険しい山地の中に、突如として盆地が現れる理由は、大地変動でできた「穴」だったのである。現在でも人吉盆地は、【高原一朝の迫断層】と【人吉盆地南部断層】という断層帯に挟まれていることから、断層運動によってできた地形であることがわかりやすい。また、【川辺川】の十四人淵付近で川がクランク状に蛇行している箇所は、右横ずれ断層の証拠としてわかりやすい。今では周りを山々に囲まれたこの盆地で多くの人が暮らし、また周辺の山から吹き下ろす風にのって盆地にたまった湿気が、幻想的な【霧】や【雲海】をつくり、魅力的な景色を見に多くの人が訪れている。

■ かつて人吉盆地は巨大な湖だった

人吉盆地には周囲の山で湧き出した水が幾筋もの川となって流れ込んだと考えられるが、その水がその先どの方向に流れていたかについては様々な説があり、はっきりしていない。しかし、人吉盆地が誕生してまもなく、【肥薩火山群】やの火山活動によって、人吉盆地の周囲は閉塞し、逃げ場のなくなった水が溜まって【古人吉湖】を形成した。この地に巨大な湖が存在した証拠は人吉盆地の中でも様々な場所で見ることができる。球磨村の総合運動公園付近には【人吉層】の見事な露頭が見られ、また人吉市や山江村では淡水海綿化石が見ついている。現在の人吉盆地が農業のしやすい平らな地形となったのは、この古人吉湖の影響が大きい。概ね100万年前には、現在のように西側の比較的低い場所から流出をはじめて古人吉湖は消滅したと考えられている。その後、阿蘇火砕流や加久藤火砕流、阿多火砕流始良火砕流などの様々な影響を受けてきたが、盆地内での火山活動の痕跡は確認されていない。それにも関わらず球磨川流域の様々な場所に存在する【温泉】は、プルアパート盆地を形成した断層活動と、その後の古人吉湖の堆積物の基底部から湧き出している植物由来のものである。

■ 干拓の地八代平野では歴代領主が球磨川の洪水と闘ってきた

現在の球磨村や芦北町を通る方向に流出口を見出した球磨川は、しばらく急峻な山地の谷間の狭窄部を流れ、八代平野へと抜ける。最終氷河期以降の海面上昇と球磨川などから供給される土砂の堆積作用によって八代平野が形成され、さらに加藤清正の最初の着手以降江戸時代の藩政によって大規模な干拓が行われたことで、現在の八代平野久約3分の2の地域は干拓事業によって形成されたものである。急流・球磨川は八代平野を通して八代海（不知火海）に注ぎ込むのだが、干拓で広がった八代平野はゼロメートル地帯であり、古くから洪水や高潮の被害を受けやすい地であったため、この地を治めてきた領主たちが治水のために行ってきた事業や【八の字堰】などの建造物の名残が今でも随所に見られる。



7 今後の取組み・スケジュール

令和6年度の取組み

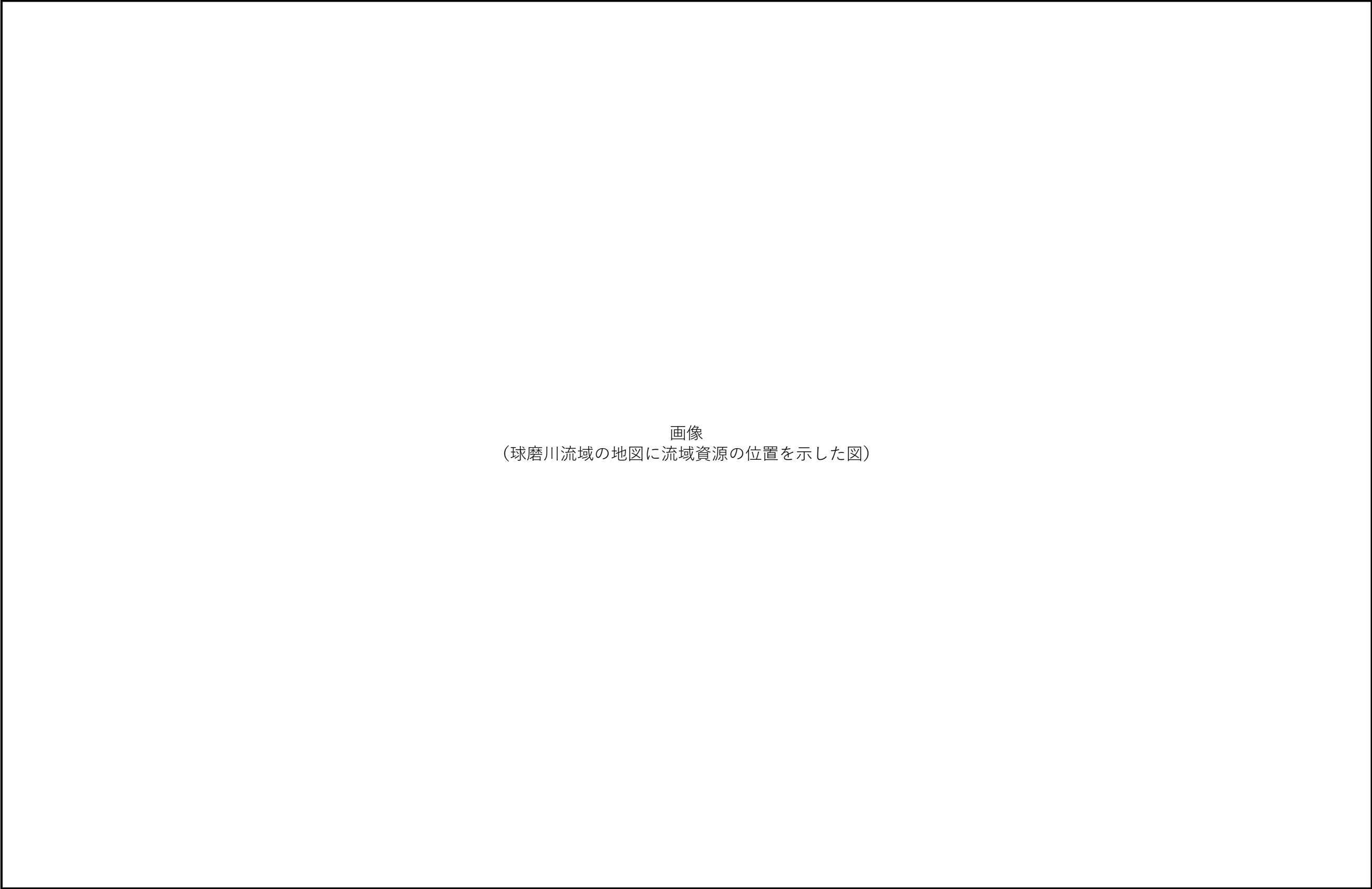
	日時	講演・説明	ワークショップ	
第1回	10月23日(水) 14:00-17:00	球磨川リバーミュージアムとは	●球磨川リバーミュージアム課題抽出	●流域資源の抽出
第2回	1月31日(金) 14:00-17:00	球磨川リバーミュージアムの方向性・目指す姿について	●方向性・目指す姿についての意見交換	●流域資源の追加とストーリー整理
第3回	2月28日(金) 14:00-16:30	球磨川リバーミュージアム構想計画(素案)の提示	●素案についての意見交換	●流域資源とストーリー詳細情報整理
球磨川リバーミュージアムの方向性・目指す姿の共通認識				

令和7年度の取組み(予定)

- 1. 令和6年度に引き続き流域資源の追加とストーリー整理、仲間づくり（民間団体・住民等）
- 2. 球磨川リバーミュージアム構想の方向性について広く発信するキックオフフォーラムを実施
- 3. 国・県・市町村等の役割分担、推進体制等の検討
- 4. 「球磨川リバーミュージアム構想」の策定

流域資源(候補)マップ

・番号は次頁の資源名の番号と整合



画像
(球磨川流域の地図に流域資源の位置を示した図)

流域資源(候補)リスト一覧①

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
自然資源	地形・地質	01	万江川	(広域)	清流、ヤマメや親水性など恵みが豊か
		02	山田川	(広域)	清流
		03	川辺川	(広域)	
		04	球磨川水源	(広域)	
		05	白髪岳	あさぎり町	登山 初心者 一部球磨川支川の源流でもある ブナの木
		06	市房山	水上村	
		07	仰(のけ)烏帽子山	山江村・相良村	福寿草・シャクヤク・登山
		08	肥薩火山群	(広域)	
		09	高原-朝の迫断層	錦町	
		10	人吉盆地南部断層	(広域)	
		11	日奈久断層	(広域)	
		12	秩父帯	(広域)	
		13	人吉層	(広域)	
		14	川口層	(広域)	恐竜の化石が見つかる (八代市坂本辺り)
		15	大坂間構造線	(広域)	
		16	四万十帯	(広域)	
		17	カルスト台地	(広域)	標高900m、八代海、球磨川を望む
		18	ゆずり葉台地	(未特定)	
		19	火砕流堆積物	(広域)	入戸→阿蘇→阿多→加久藤
		20	岳本轟の滝	球磨村	火山堆積台地
		21	球磨盆地ができた経緯	(広域)	入戸火砕流・阿蘇4 火砕流・阿多火砕流・加久藤火砕流、様々な火砕流で人吉・球磨盆地ができた。
		22	人吉湖	(広域)	かつて、人吉・球磨盆地は湖だった。決壊して球磨川ができた。盆地全体が湖。地層が見られる。
		23	清正公岩	芦北町	加藤清正が相良の方をみて攻められないと判断したところ。
		24	魚背岩(ぎょはいがん)	あさぎり町	
		25	天狗岩	五木村	洞穴があって天狗がいたと言われている。
		26	亀割石	(未特定)	日本昔ばなし
		27	黒岩	(未特定)	
		28	深田石	(広域)	加工のしやすい石が良くとれる。主に蔵用の石として使われていて、夏は涼しく冬は暖かい。焼酎蔵にも使われている。
		29	石器の石材	(広域)	昔の武器材料、球磨川のチャート
		30	メガロドン化石群	球磨村	
		31	球泉洞	球磨村	昭和50年ころは年間50万人が訪れていた。九州最大5000m。
		32	神瀬石灰岩洞窟	球磨村	愛媛大学の発掘調査隊が入る予定。洞窟内に神社(熊野座神社)がある。西向きの神社が数か所ある。日本最大の開口部。

- ・2回の勉強会で挙げられた流域資源を掲載
- ・資源名の前列の番号は前頁マップと対照するための整理番号

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
自然資源	自然景観	33	景観	(広域)	景観 1億5千万年前の海底(断岸) 海底だったところ 九州だんがい77h石灰岩を滝にみたてたりしている
		34	高山からの眺め	あさぎり町	球磨盆地が見渡せる 深田地区くまぼんち一望できる くま川右岸
		35	霧	(広域)	球磨川が有って盆地なので霧が発生しやすい。霧の出方で天気を予想したり、地元の人は霧のかかる場所かからない場所を知っている。
		36	朝霧	(広域)	
		37	朝霧 紅取山	人吉市	フォトスポットがつくれそう
		38	雲海	(広域)	
		39	雲海、日の出	(広域)	大久保地区
		40	風景	(広域)	HASSENBAから見た人吉橋の夕方の風景
		41	川辺川ブルー	(広域)	水質日本一 14年継続守れるのか？
		42	瀬(急流)	(広域)	
		43	槍倒しの瀬	球磨村	
		44	球磨川48瀬	(広域)	
		45	滝	(広域)	
		46	かなめの滝	人吉市	火山のようはい・球磨村との話につながる
		47	川島布ヶ滝	球磨村	
		48	走り水ノ瀧(自然景観)	八代市	
		49	沢見の展望所	球磨村	八代海球磨川を望む
		50	妙見展望台	多良木町	
		51	千望峠	あさぎり町	
		52	アポロ峠	多良木町	
		53	鮎釣りの風景	(広域)	
		54	人吉城下町	人吉市	人吉城跡の木を全部切るように市長に言ったら笑われたが、石垣に霧がかかった絵は非常にカッコよく観光の売りになる
		55	球磨川流域の田園風景	(広域)	夏〜秋ごろにかけて広域農道の両脇に広がる田園風景が素晴らしい、青空と夕日のコントラスト
		56	グリーンスター大通	五木村	大通峠公園近くの林。「五木村と熊本南部森林管理署は林野庁が進める「協定締結による国民参加の森づくりの一環である遊々の森」の協定を結び「グリーンスター大通」と命名。この制度は、協定を結ぶことによりさまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を継続的に利用できるようにする
		57	ヤギの放牧	あさぎり町	※「山羊のいる球磨川牧場」をプロット
		58	橋	(広域)	川辺川の両岸に集落があるので橋が多い。
		59	橋梁	(広域)	橋から見える風景
		60	吊り橋 水上村	水上村	白水滝に行く途中の橋 アクリル板で下が見える
	動植物	61	カワセミ	(広域)	
		62	ヤマセミ	(広域)	
		63	ホタル	(広域)	特に万江川。山田川。蛍百選が点在している
		64	ツクシイバラ	(広域)	バラの原種、免田より下流に自生
		65	リュウキンカ(自然)	(広域)	
		66	コウモリ	(広域)	生物多様性 ひみつ基地でも見れる つづらせ堂とかでもみれる 5種類いてみれる

流域資源(候補)リスト一覧②

・2回の勉強会で挙げられた流域資源を掲載
・資源名の前列の番号は前頁マップと対照するための整理番号

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
歴史・文化	史跡・文化財	67	大村横穴	人吉市	人吉駅ウラ
		68	八代城跡	八代市	以前は河口付近にあった。
		69	佐敷城跡	芦北町	
		70	人吉城跡	人吉市	人吉市、文化庁の方針としては人吉城跡の樹木伐採はOK、住民も8割程度はOKだが、少数の反対の大きな声がある。特に杉については、どこかの学校の校歌に採用されており、切るとは何かという意見がある。
		71	中世城跡 山田城	山江村	
		72	立岩の史跡	あさぎり町	船着場の遺構 球磨川の水運・船着場の遺構
		73	才園(さいぞん)古墳	あさぎり町	歴史・考古、鎏金神獣鏡(金めっきの鏡)、球磨川を超えてきた石材
		74	赤松館	芦北町	近代和風建築
		75	石蔵利活用	山江村	山江村役場の近くに物産館や地域の方のふれあいスペースを整備予定
		76	桑原家住宅	錦町	武家屋敷、重要文化財
		77	各時代の地政学的立地	(広域)	
	社寺	78	神社仏閣	(広域)	ありすぎる。日本遺産のリストで確認すればいい
		79	水島	八代市	国指定名勝の神社あり。水島の中に神社がある。
		80	青井阿蘇神社	人吉市	
		81	山田大生神社	山江村	
		82	西・一武・木上地区の神社	錦町	錦町の主な3地区にそれぞれ代表的な神社があって地域の方が大切にしている(西村大王神社、一武八幡宮、木本神社?)
		83	青蓮寺	多良木町	
		84	十島菅原神社	相良村	国指定文化財、昔は船でやってきて参拝していた 写真資料がある すえ村の写真何千枚 1589年にたてたじっ●か町のきそをつくった川から入っていく
		85	権現神社	相良村	井沢
		86	浄心寺	湯前町	
		87	猫寺	水上村	
		88	相良三十三観音	(広域)	
		89	神瀬住吉神社	球磨村	こうのせすみよし神社
		90	藤本五所神社(社寺)	八代市	球磨川水運の中心地
		91	雨宮(あまみや)神社	相良村	地元では「トトロの森」と言われている 永江雨宮神社
		92	淡島神社	山江村	山江村万江にある。女性の病気に効く。3月に彼岸祭り
		93	錦町十日一のお堂群	錦町	球磨川に並行してお堂が5体並んでいる。集落を守る結界の役割を果たしていたのでは？と言われている。

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
歴史・文化	伝統文化	94	葦北鉄砲隊	芦北町	
		95	球磨川舟歌(民謡)	(広域)	
		96	五木の子守唄	(広域)	五木の子守唄
		97	民話・昔話	(広域)	
		98	木々子(きぎす)の七夕綱	八代市	無形文化財。藁を使った占いのなもの。旧暦の伝統行事坂本でも有り。
		99	七夕縄	(広域)	八代の坂本で、場所によっても異なる
		100	川神楽	相良村	川辺川流域、水の神への信仰 春と秋だけをきってひしゃくみたいにして水なんじこにあわないようにする
		101	人吉市の町内の祭り	(広域)	町内単位(90程)で夏祭りがあるっていて、地域の結束が強まっている。この時期に帰省する人たちも多い。
		102	太鼓踊り(3) 棒踊り(1)	(広域)	鹿児島県の民俗 あさぎり町に上手石坂地区で棒踊りをしている
		103	臼太鼓踊り	(広域)	郷土芸能
		104	山の神信仰	(広域)	日本人の信仰の原点
		105	隠れ念仏	(広域)	人吉藩、薩摩藩
		106	仏さま御堂が多い	(広域)	
		107	「講」の継続	(広域)	自分の代わりに参ってもらう文化が残っている(人吉・球磨全域)おいせ講 お金あつまって1年に1回おいせまいりをしていた その文化が残っている
		108	球磨弁	(広域)	上球磨下球磨で方言が異なる。方言を聴くと故郷に戻ってきた感じがする。
		109	球磨拳	(広域)	昔は全国で流行っていたらしい くまぐんだけ残った 多良木はけっこう今も残ってる
		110	相良700年	(広域)	鎌倉時代に静岡から相良さんが来て700年、明治までずっと同じ当主が治めている。当主がずっと同じというのは全国的にもあまり多くはない。神社・仏閣のデザインもある程度の統一性がある。球磨川に流入するそれぞれの支流に文化がある。上球磨・下球磨・芦北地域で通ずるものもあり、文化的に異なるものもある
		111	木材、木工品	(広域)	球磨川を利用して上流から下流に木材を運んでいた。木工品を作る方も多く存在している。
		112	四浦の和紙	相良村	昔ながらの製法で和紙を作っている。数も少なく販売用ではない。
	史料	113	エンブリー資料	(広域)	熊本県の須恵村(現あさぎり町)に1年間滞在して、文化人類学の記録を残したジョン・エンブリーの資料・昭和初期の農村の農村の姿・球磨川氾濫の写真・球磨川と人々の暮らし等
		114	県教委資料「球磨川水運」		昭和に県教委がまとめた資料がある。文化財等をまとめた資料。球磨川の水運関係。
		115	八代日記		八代日記(戦国時代)相良藩の熊本方面への移動ルートが複数記述あり。治世で異なっていたり、季節によっても違ったり、時短のためのルートなどがある。芦北から船で八代というルートもあり。
		116	国交省4連刷「球磨川」		球磨川をまとめたパンフ。好きです球磨川?みたいなやつがあった。
		117	副読本		歴史や地理をまとめた副読本あり。
	人物	118	小山勝清	(広域)	相良村出身の作家。娘さんは現教育長。

流域資源(候補)リスト一覧③

- ・2回の勉強会で挙げられた流域資源を掲載
- ・資源名の前列の番号は前頁マップと対照するための整理番号

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
災害・防災	災害遺構	119	球磨川第一橋梁	八代市	災害遺構として自治協議会が高専生と一緒に保存する動きがある。一部部材を道の駅に展示予定。
		120	球磨川第二橋梁	球磨村	渡地区に整備予定の公園に設置予定。
		121	渡小、千寿園跡地	球磨村	観光案内人の会が語り部として活動。一人500円。県外から行政、議会、教員、消防、婦人会などが訪れる。※渡地区に整備予定の公園の予定地。
		122	川村駅　くま川鉄道	相良村	災害遺構
	防災施設	123	球磨川はね	八代市	7か所あったうち5ヶ所が現存。2箇所は流された。1600年後半の治水施設。国交省と保存していくよう動いている。
		124	遙拝堰・遙拝八の字広場	八代市	公園・キャンプ場
		125	清願寺ダム	あさぎり町	アースダムとしては日本一高い。治水と灌漑
		126	川辺川ダム	相良村	上流の協力があってこそ下流の安全が担保されている。人吉市の人ほど思いを大切にしなければならない。
		127	市房ダム	水上村	治水・利水・発電
		128	四谷ダム	未特定	ロックフィル式ダム
		129	遊水地	(広域)	地域が協力して、元々住んでいた場所を離れて遊水地が作られていることを後世に語り継ぐ必要がある。
		130	大岩地区の砂防	球磨村	R2豪雨後に造成　見ごたえあり
	災害文化	131	水害の記憶(語り部)	(広域)	
		132	水害品	(広域)	以前は九日町辺りが毎年浸かっており、水害で傷んだ商品が安く売られていた。
観光	温泉施設	133	温泉	(広域)	
		134	一勝地温泉	球磨村	かわせみ。美肌の湯。
		135	温泉センター	山江村	
		136	鶴の湯旅館(温泉)	八代市	
		137	坂本温泉センター(温泉)	八代市	
		138	吉尾温泉	芦北町	
		139	道の駅大野温泉センター	芦北町	
	アクティビティ	140	うたせ船	芦北町	底引き網漁
		141	ラフティング	(広域)	
		142	球磨川くだり	(広域)	
		143	川遊び	(広域)	
		144	バンジージャンプ	五木村	西日本N0.1　アクティビティ西日本No.1、66mのブリッジバンジー
		145	登山客	(広域)	
		146	ジャワークライミング　ケビンク	五木村	端海野キャンプ場
		147	カヤック　サップ	(広域)	
		148	球磨川サイクリングロード	(広域)	球磨川沿い
		149	深田の石坂堰付近SUPできそう	あさぎり町	深田の石坂堰SUPができそうな箇所がある。
	イベント	150	どんぶりフェア		奥球磨（水上・湯前）で開催されている
		151	くまろんフェア		球磨栗のフェア（期間限定）山江栗とのコラボできそう

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
農業	灌漑施設	152	飛行場用水路	相良村	台地上にあった飛行場に運ぶための用水路がある。その他用水路が多く整備されている。
		153	川辺西溝	(広域)	灌漑　1630年頃相良せいべい家老　かんがいのため445号せんぞい
		154	鮎ノ瀬井出	多良木町	黒肥地くろひじ字溝みぞノ口くちで球磨川の水を取入れ、字鮎ノ瀬などを通り字是居ぜいまで約三キロにわたり、流末は牛繰うしくり川と球磨川に注ぐ用水路。(web調べ)
		155	世界灌漑遺産(幸野溝・百太郎溝)	(広域)	灌漑によって農業ができるようになり、地域が発展した
		156	灌漑施設遺産	(広域)	歴史・産業　灌漑用水(左岸を潤し農業が盛んに。米作りに多大な貢献)
		157	農業用小路	(広域)	
		158	農業用施設	(広域)	用水路・堰
		159	荒瀬ダム跡(利水ダム跡)	八代市	
		160	瀬戸石ダム	芦北町	
	農業施設	161	農地(水田)	(広域)	水が豊富な地域のため。人吉球磨地域でも特に耕地面積が大きい。
		162	棚田	(広域)	松谷棚田(日本の棚田百選)、鬼ノ口棚田、日光
		163	茶畑	(広域)	
	農業文化	164	焼畑文化	(広域)	SDGsに注目される農耕文化　平地がない分山の民がどうくらしてきたかわかるもの　五木村と水上村
		165	豊かな農業	(広域)	
食	水産物	166	足赤エビ味噌漬け	(広域)	宮本海産物
		167	田浦銀太刀	(広域)	タチウオ
		168	ヤマメ	(広域)	万江川に養魚場があるが、水害で全部流された。後継者なし。村で整備した施設を民間が運営
		169	川辺川の鮎	(広域)	
		170	鮎	(広域)	他の地域の鮎は小さい。大きい鮎は球磨川ならではの。
		171	球磨川の鮎と川辺川の鮎	(広域)	球磨川より川辺川の方が美味しいらしい
		172	一勝地梨	(広域)	
	農産物	173	お米	(広域)	米がおいしい。県外にいる親族に送っているが、それを食べた魚沼出身者が、魚沼コシヒカリよりおいしいと言った。
		174	棚田米	(広域)	松谷棚田(日本の棚田百選)
		175	鶴喰米(農産物)	八代市	
		176	栗	(広域)	昭和天皇に献上した　今年地理的表示保護制度(GI)の認証取得
		177	やまえ栗	(広域)	
		178	梨	(広域)	
		179	くねぶ	五木村（広域）	柑橘類
		180	でこぼん	芦北町	
		181	柿	(広域)	

流域資源(候補)リスト一覧④

・2回の勉強会で挙げられた流域資源を掲載
・資源名の前列の番号は前頁マップと対照するための整理番号

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
食	食資源	182	四浦のこんにゃく	(広域)	昔ながらの製法でこんにゃくを作っている。数も少なく販売用ではない。
		183	なかめしぐるりあん	(広域)	おはぎの別名 中にごはんまわりがあんこ さがらで言う
		184	球磨焼酎	(広域)	
		185	とうふのみそ漬	(広域)	山うに豆腐として五木村で受け継がれてきた
		186	ジビエ	(広域)	
		187	とり飯	(広域)	
		188	ホルモン街道	錦町 (広域)	錦町にある
		189	フルーティーロード	相良村・錦町	相良村のお茶と錦町の果物を合わせてめぐる道として打ち出し
		190	カレー街道	芦北町	サラダ玉ねぎを使うことが登録条件
		191	ウイスキー工場	人吉市	県境の「田野高原」 高橋酒造
	店舗	192	鮎やな	八代市	坂本の鮎料理屋 地元の有志が立ち上げたもので、現在は仮設商店街で営業しているが、是非継続してほしい。
		193	茶湯里	相良村	食事・宿泊・プール
		194	ひまわり亭(郷土料理)	人吉市	
交通	駅	195	白石駅舎	芦北町	明治41年 JR肥薩線
		196	一勝地駅	球磨村	年間1万人くらいが必勝祈願に訪れる。JR肥薩線。お守り、入場券、合格祈願に。
	鉄道	197	くま川鉄道	(広域)	
拠点	公園	198	丸岡公園	山江村	桜 ツツジ いつも手入れがされており綺麗
		199	白滝公園	五木村	断崖が売り
		200	宮園の大イチョウ	五木村	樹齢500年以上 自然(天然記念物)樹齢500年以上の大イチョウの大木 県指定 木
		201	芦北海浜総合公園	芦北町	
		202	道の駅坂本(施設)	八代市	
		203	さかもと八竜天文台(施設)	八代市	
		204	道の駅たのうら	芦北町	
		205	道の駅芦北でこぼん	芦北町	
	施設	206	山江SA	山江村	ラーメンがおいしい。栗饅頭。山江村唯一のコンビニがある。
		207	時代(とき)の駅「むらやくば」	山江村	
		208	ヒストリアテラス五木谷	五木村	五木村の情報はここに全て集まっている
		209	ファミリーパーク宇宙ランド	多良木町	
		210	湯前町まんが美術館	湯前町	グリーンパレス・キャンプ場・
		211	くまりば	人吉市	人吉市まち・ひと・しごと総合交流館
		212	端海野キャンプ場	五木村	国立公園内のキャンプ場
		213	サイクリングロード	(広域)	

分類		資源名		資源の場所	資源の概要
その他	事業	214	川辺川魅力創造事業	(広域)	
		215	廻り観音周辺拠点整備	相良村	アクティビティ+コミュニティ
		216	川のバリアフリー(免田川)事業	(広域)	
		217	雨庭づくり	(広域)	
	その他	218	道路の線形	(広域)	飛行場を隠すために直線ではなく曲がった線形の道路が多い。
		219	槻木(つきぎ)地区	多良木町	球磨川流域ではないのに熊本県に属しているのが面白い(宮崎県に属していても不思議ではない)
		220	サイの伝説	(広域)	
		221	カップパ 川ん太郎	(広域)	河童
		222	マンガ放課後ていぼう日誌	芦北町	
		223	夏目友人帳の聖地巡り	人吉市	